

## 等脚台形法の考え方と活用法

平栗扶美

近年、コロナ禍の影響でデジタルデータを用いた非対面でのやりとりがクローズアップされているが、補綴物は患者のために詭えた“治療計画”のもとにやり取りされている以上、歯科医師と歯科技工士の直接のコミュニケーションは不可欠であり、『製造・加工』を支える、ひと対ひとの『相談する』『検討する』部分についての価値は、今後高く評価されていくと私は推測している。続いて価値を生む意思疎通を行うためには、共通の認識や基準フレームといったツールが必要である。今回は私が臨床で活用しているツールのひとつとして等脚台形法とコミュニケーションツールとしてノートの活用を紹介したい。

等脚台形法は、宮城県白石市在住のDt. 大野健夫氏が（白山デンタルラボラトリー総義歯研究所）考案した人工歯排列のためのガイドラインで、総義歯だけでなく局部床義歯に関連する残存歯のプレパレーションや補綴設計にも活用できる簡便な模型分析法である。本来ならば、模型をもちいた実習形式で行うものであるが、今回はいくつかのケースプレゼンならびに、受講者のみなさまには、所定の用紙に台形を描いていただきながら解説していく。

（参加予定者には用紙をこちらで用意いたします。）

### 「治療に関わることの重要性」

～私が考える歯科技工士の役割～

中村悠介

補綴修復治療において、咬合再構成、欠損補綴、審美修復など症例より咀嚼、嚥下、発音を健全に行える口腔内を維持し、患者満足度やQOL向上に貢献するためには、コ・デンタルスタッフの一員として補綴装置を製作する技工士の立場から、診査と診断、治療計画に関わる必要がある。得られた情報と担当医とのコミュニケーションから治療ゴールを共有し、治療計画への参加、治療途中の再評価においても状況を把握して提案する事で、最終補綴製作時の難易度緩和につながるだけでなく、治療結果に対しても差がでる。

また日々の臨床においては上記の様な症例のみでは無いことも当然である。しかし、それ故に何が重要か症例を含め、私の考える歯科技工士の役割を紹介する。